



Flyin' to the Sky

京都府立大学 国際センター ニュースレター

March 2024 Vol.17

協定校が35校に増えました

コロナ禍の収束傾向が色濃くなった 2022 年夏以降、新たな海外の大学との交流関係の構築を目指し、山口美知代 副学長兼国際センター長が幾多の海外の大学を訪問し国際的なイベントに参加しました。その成果も含めて、本年度新たに協定を締結した大学は14校にのぼります(2024年3月現在)。これまでは、アジア圏の大学との部局間協定が多かったのですが、欧米圏の大学との全学協定も締結されました。また、海外の大学へ留学する学生を支援するため、JASSO(独立行政法人 日本学生支援機構)やトビタテ! 留学 JAPAN による奨学金、池田栄一学術振興基金などの適用をサポート致します。

2023年度新たに協定を締結した大学

協定校名	国または地域名	締結年月日	交流母体および正責任教員
ムラワルマン大学	インドネシア	2023年5月26日	生命環境科学研究科 神代圭輔 准教授
義守大学	台湾	2023年7月12日	国際センター長 山口美知代 教授
檀国大学校	大韓民国	2023年7月19日	国際センター長 山口美知代 教授
国立成功大学	台湾	2023年8月14日	文学部 岡本隆司 教授
国立政治大学	台湾	2023年8月15日	文学部 岡本隆司 教授
釜山大学校	大韓民国	2023年9月21日	国際センター長 山口美知代 教授
ソウル 市立大学校	大韓民国	2023年10月30日	国際センター長 山口美知代 教授
ボストン大学	アメリカ合衆国	2023年12月13日	国際センター長 山口美知代 教授
リムリック大学	アイルランド共和国	2023年12月22日	国際センター長 山口美知代 教授
サンディエゴ 州立大学	アメリカ合衆国	2024年1月24日	国際センター長 山口美知代 教授
西オーストラリア 州立大学	オーストラリア	2024年1月31日	国際センター長 山口美知代 教授
リガ工科大学	ラトビア	2024年1月31日	国際センター長 山口美知代 教授
テキサス大学 ダラス校	アメリカ合衆国	2024年2月22日	国際センター長 山口美知代 教授
ティーサイド大学	イギリス	2024年3月13日	国際センター長 山口美知代 教授

国際京都学セミナーを実施しました

令和5年7月31日から8月7日まで、本学で初めて「国際京都学夏期セミナー」が開講され、協定校のレーゲンスブルク大学の学生8名が参加しました。セミナーは日本語の授業、英語による京都文化に関する講義、また、文化体験アクティビティ、フィールドワークといったプログラム内容でした。府大教員および外部講師が講義を担当し、授業補助と生活面のサポートを本学の学生がチューターとして行いました。8月5日に歴史館大ホールで開かれた国際京都学シンポジウム「京都府立大学ドイツ世界遺産都市研修のあゆみ-レーゲンスブルク大学協定締結10周年記念」では、参加のドイツ人学生2人が、セミナーでの学びについて発表しました。最終日には、レーゲンスブルク大学の参加学生に、所定の出席数と最後の日本語の試験成績を基に修了証書が手渡されました。このセミナーでレーゲンスブルク大学の学生達は、府大茶道部のお点前をうけるなど、日本文化についても大変興味を持ち、学びの多い毎日を過ごすことができました。

今回のセミナーが好評であったことをうけ、来年度以降も本学で日本語や日本文化、京都学を学ぶ機会を拡充することが期待されています。



ムラワルマン大学(インドネシア)での研修体験談

私は2月18日(土)~28日(火)、インドネシアのムラワルマン大学主催の「ボルネオ島の熱帯多雨林の保全・利用と修復を学ぶ国際交流プログラム」に参加しました。参加を決めたのは、熱帯林業の実情を知りたかったからです。私は学部時代から森林・木材に関する勉強・研究を行ってきました。本研修プログラムに参加し、インドネシアにおける林業や木材利用が日本と大きく異なることを実際に自分の目で見て感じられたことは大きな財産になりました。他大学を含めた他の研修生と現地のスーパーやお店に出向き、拠点であるサマリダの雰囲気をもみんなで楽しんだことは良い思い出です。苦心したこととしては、初めての海外旅行でもあり、常に水に気をつけながら過ごしたことが一番大変でした。今回のプログラムを通じて、国内外を問わずにできた友人を大事にしなが、今後も様々な人達と交流を図りながら、より良い社会になるように貢献していきたいと考えています。

生命環境科学研究科 博士後期課程
3回生 堀山 彰亮さん



木材標本と筆者



植林活動も行いました

檀国大学校(韓国)での研修体験談

私は高校生の頃に、ドラマと音楽を通して韓国に興味を持ちました。大学の授業で韓国語を学ぶようになり、実際に韓国に行き文化を肌で体験するとともに、韓国の方々と会話することで韓国語の能力を高めたいと思ったので参加を決めました。

このプログラムでは、韓国語の授業を受けた後、檀国大学校の学生さんが一人ついてくれる少人数のグループでの活動がありました。放課後も一緒にご飯を食べ、他愛ない話もしながらお互いの文化の違いについて学ぶことができ、とても充実した時間でした。

このプログラムを通して、こんなに近い国でも思っていた以上に違うところがあることを感じました。個人的に日本のほうが良いと思うところも、韓国のほうが良いと思うところもありました。日本にいて見えているものが世界の当たり前ではないことを忘れず、他国のほうが良いと思ったところは取り入れていけたらいいなと思います。

生命環境学部 環境デザイン学科
1回生 土居明歩さん



Leeum 美術館にて

ウィーン農科大学(オーストリア)での留学体験談



ウィーン農科大学の前にて



親しくなった皆とクリスマスパーティー

生命環境科学研究科博士前期課程 2 回生 井澤 翼さん

有機農業やオオムギの研究プロジェクトに関心があり、ウィーン農科大学への留学を決めました。初めてのウィーンはとても新鮮でした。街並みはおしゃれで美術館や博物館がたくさんありました。本場のオペラも鑑賞しました！ただ絵や音楽に関しては勉強不足を痛感しました(笑)

研究ではフィールドワークを含め有意義な経験ができました。苦手だったバイオインフォマティクスは、先生が毎日マンツーマンで教えてくださったおかげでかなり深く学ぶことができました。

留学を通してオーストリア、ナイジェリア、エチオピア、イランなど様々な国出身の友達ことができました。世界中からウィーンに集まった人達に囲まれ私には夢ができました。それは日本では諦めかけていた研究者への道です。ヨーロッパは研究者への道が整備されていて、皆高いモチベーションで研究に励んでいます。修士課程修了後はいったん日本の企業で働く予定ですが、近い将来、ヨーロッパの大学への博士課程進学を視野に入りたいと考えています。

国立華僑大学(中国)への留学体験談



華僑大学院生との交流会でプレゼンする筆者



新入生歓迎パネルにて。右は同じ府大生の布井さん

生命環境科学研究科博士前期課程 2 回生 植地 俊輔 さん

私は、異国の地で生活したいという好奇心と周りの環境を大きく変えたいという思いから留学することを決めました。行ったことのない場所を訪れ、知らない料理を食べるといった様々な「初めて」を経験し、大変刺激的でした。中国語に関しては初学者レベルだったので、中国人学生の友達とは英語でコミュニケーションを試み、言葉が通じない場合でもジェスチャーで示す等して試行錯誤しました。最も楽しかったのは、彼らとなんでもない話で盛り上がった時や KTV(中国のカラオケ)で遊んだ時です。国籍の違う友達と同じ楽しさを共有できたことが嬉しかったです。一方、現地で自身の研究に関する街路樹の調査を行うために、中国での既往研究を調べ、調査計画を検討することには苦心しました。

私は、金銭面の負担が大きなハードルだと感じていたので、JASSO(日本学生支援機構)の奨学金を受けられたことは本当に有難く思いました。留学を経て、言語学習や長期での留学に対する意欲がかなり向上しました。

International Student from Brazil

生命環境学部 研究生 Laysa Lorena Silva de Santana さん



キーウフルーツを収穫中



賀茂川のほとりにて

Ever since I was 6 years old, I dreamt of living in Kyoto. When I arrived in Japan, I can say that my expectations of the beauty of the city were exceeded. I'm very grateful for everything I'm learning at Prof. Cruz's laboratory, and for all the new academic and cultural experiences I'm having every day. Some days, I feel a little tired, but I never get discouraged because there's still so much to learn. Even with the challenge of the different languages we have, I've always had a lot of help at KPU, and everyone is working hard to make sure that I understand everything accurately.

At KPU, I'm able to gain active learning experiences. KPU delivers the quality of teaching it promises, and its teachers give their students the full experience of active learning. KPU is committed to teaching, and I am always grateful for all the support I have had at KPU. Despite all the cultural differences, everyone is always willing to help in every possible way. I know Kyoto may not be the best city in the opinion of some, but it is the best city in my opinion.

シンガポールオフィスの開設について

2024年2月、塚本学長が、日系企業であるシノビソース社の服部由博社長と京都府立大学シンガポール・オフィスの設置に係る覚書に署名しました。

今後、同社のオフィスの一角を学生の派遣・教員の出張時の拠点として活用し、本学とシンガポールの学生等との交流、さらには周辺諸国の大学等との交流を深めていく予定です。

なお、服部社長は、京都市出身で京都府の県人会的組織にあたるシンガポール京都倶楽部の会長もされているというご縁があり、このたびご協力をいただくことができました。



左：塚本学長、右：服部社長

米国・スタンフォード大学との連携について

2023年7月20日から25日にかけて、日米の研究連携強化を目的としたJapan-US Research Collaboration Weekがスタンフォード大学で開催されました。このイベントにおいて、山口美知代副学長兼国際センター長がプレゼンテーションを行いました。そのタイトルは“A Proposal of Collaboration with Kyoto: Long-term Local Sustainability in the Ancient Capital”と題し、古都京都に根ざした本学の取り組みを、新自然史科学創生センターや京都地域未来創造センターの活動を中心に紹介しました。また、生命環境学部の4回生2名も現地に赴きこのセミナーを聴講しました。



プレゼンテーションを行う山口副学長兼国際センター長

留学生との交流ツアーが開催されました

2023年10月29日(日)、国際センターと京都府立大学後援会による「2023 留学生との交流ツアー」が開催されました。今回は、初めて京都府立医科大学との合同イベントとして行われました。このイベントには、府立大から4名、府立医大生から10名の学生の合計14名が参加し、神戸を訪れて防災に関するワークショップに参加しました。その後、「人と防災未来センター」を訪れました。留学生たちは日本人学生と交流しながら、防災の重要性について学びました。



ワークショップで発表しました



Wave Makerを熱心に見る学生達

発行日 2024年3月

発行責任者 国際センター長 山口美知代

〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町1-5

TEL: 075-703-5905 Email: kokusai@kpu.ac.jp